



2021年8月8日主日礼拝メッセージ 日本同盟基督教団 クリスチャンプレイズチャーチ

《弱さがあっても感謝出来る理由》

説教者：鄭南哲牧師

本日の聖書箇所：ローマ人への手紙8章26節-28節

(Rev.Jung nam-chul)

「26同じようにして御霊も、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、何をどう祈ったらよいか分からないのですが、御霊ご自身が、ことばにならないうめきをもって、(私たちのために)とりなしてくださるのです。27 人間の心を探る方は、御霊の思いが何であるかを知っておられます。なぜなら、御霊は神のみこころにしたがって、聖徒たちのためにとりなしてくださるからです。28 神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人々のためには、(神が)すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。」

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！一週間もお変わりなく、みなお元気でしたか。願わくは、週末から始まったお盆休みの期間中、コロナ禍と猛暑の日々が続く中で今まで疲れたみなさんの心身ともにゆっくり休息と再充電の時となりますように切にお祈り申し上げます。皆様の大きなお祈りと愛の支えにより、先週水曜日までの2週間自宅待機の期間を無事に終え、日常の生活や教会の働きや奉仕に復帰することが出来ましたことを、改めて心から感謝いたします！

本日は、《弱さがあっても感謝出来る理由》というタイトルで共に今日の御言葉を考えて見たいと思います。

結論的に言いますと、イエスキリストを信じる我々のうちにいつも、聖霊の神様がともにおられるからです！

聖霊の神(御霊)はどんなお方ですか。旧約原語ヘブル語聖書では神様をいつも単数ではなく、複数で表現され書かれていることが分かります。あれこれ真の神の存在が多いからでは決してなく、それは三位一体の神(父なる神、御子イエスキリスト、聖霊の神)の特性を現して下さっていることが分かります。

新学的にも、三位一体となる神について分かりやすく説明をする時に、父なる神は全てを造られ、全ての歴史の主人であられる創造主であられる神様である、御子イエスキリストは人を救う為に、人間の体を持ってこの世に来られた救い主なる神様であられ、聖霊の神、御霊は、我らの助け主なる神様として、我らが救い主イエスキリストを受け入れるように導き、益々キリストの似姿に変えられるように聖化のために神の知恵、力を与えて下さるお方であるとよく説明しています。

本日の聖書本文であるローマ人への手紙も、1章~8章までもまず三位一体の神様について書かれていることが分かります。ローマ人への手紙1章1節~3章20節まで父なる神について、ローマ人への手紙3章21節~7章25節まで神の御子イエスキリストについて、ローマ人への手紙8章1節~39節まで御霊なる聖霊の神について書かれています。特に、ローマ人への手紙1章~7章までは聖霊の神(御霊)についてはたった2回しか記録されてないですが、今日の本文8章だけでなんと19回ほど書かれています。我らが一生感謝して行くためには、何よりも聖霊の神様はどんなお方であり、どんな働きをなされるお方なのかを知ることがもっとも大切です。今日の本文はその内容をよくあらわして下さいます。

1. 助け主なる聖霊の神様はいつも我らを助けて下さるからです。

今日の本文26節に「**御霊も、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、何をどう祈ったらよいか分からないのですが、御霊ご自身が、ことばにならないうめきをもって、(私たちのために)とりなしてくださるのです。**」と教えて下さっています。

御霊すなわち、聖霊の神様は我らを助けて下さる神様であられ、聖書でイエスキリストはその聖霊の神様が我らの為の「助け主」だと教えて下さいました。

イエスキリストは聖霊の神様について、ヨハネの福音書16章7節、14章16節、26節、第一コリント12章3節にこう教えて下さいました。「ヨハネ16:7しかし、わたしは真実を言います。わたしが去って行くことは、あなたがたの益になる

のです。去って行かなければ、あなたがたのところに**助け主**はおいでになりません。でも、行けば、わたしはあなたがたのところに**助け主**を遣わします。」「ヨハネ14:16そしてわたしは父にお願いすると、**父はもう一人の助け主をお与えくださり、その助け主がいつまでも、あなたがたとともにいるようにしてください。**この方は真理の御霊です。」「14:26しかし、**助け主**、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる**聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。**」そして、パウロも聖霊によらなければ、だれでもイエスキリストを自分の救い主として受け入れ信じる事が出来ない、つまり、イエスキリストを受け入れ、信じる事が出来るように助け、神の御救いを受けられるように導いて下さるとも書かれています。「**(第一コリント12章3節中)御霊によるのでなければ、だれも「イエスは主です」と言うことはできません。**」

使徒パウロは、苦難の中にいるローマにあるキリストを信じる教会の聖徒たちに、あなたがたのため、あなたがたいつもともにおられ、助けて下さる聖霊の神様を強調し伝えて下さっています。

ここで、「**助けて下さる**」という言葉のギリシャ語の原語聖書では「**シナンティラムバネタ**」という単語で、その意味は「**他の人の手を握り(つかみ)取ってくれる**」という意味を持っています。我らは自分の力ではどうしよも出来ず、弱くて気抜けてしまった時に、自分の大切なことを諦め手放そうとする時があります。大切な自分の人生、大切な関係、大切な人、大切な神様と関係を保つ力すらなくなって手放そうとする時があっても、聖霊の神様は、変わらず我らの手をしっかり握り取って下さり、弱気のわれらを助けて下さる聖霊の神様であられることを教えて下さっています。

「わたしはあなたを 強め、あなたを助け、わたしの義の右の手で、あなたを守る。(イザヤ書41章10節)」

このように聖霊の神様はキリストを信じ、救われた我らを常に助け、慰め、知恵を与え、霊的な力を供給して下さる助け主として働いておられ、弱い時に、助けが必要な時にいつも力付けて下さり、悩み、問題を克服させ、回復と解決への道に導いて下さるお方であることが分かります。

① 我らの弱さを知っておられ、助けて下さる聖霊の神

26節に「**御霊も、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、何をどう祈ったらよいか分からないのですが、御霊ご自身が、ことばにならないうめきをもって、(私たちのために)とりなしてくださるのです。**」

今日の本文では、人は弱さを持っていることを御霊なる聖霊の神様はご存じであります。**聖霊の神様は、我らがいくら強いふりをしても、何の問題ないふりをしても、あなたとわたしの弱さ、人のすべての弱さをご存じであるお方です！**

ここで、「**弱い**」というの意味は、ただ肉の力のない状態だけの意味ではなく、肉体の弱さと共に心や霊など人のあらゆるすべての弱さをあらわす単語です。人は体の弱さを持っているだけではなく、心の弱さ、霊的な弱さを持っているのではありませんか。

その中、我らは、2019年12月中国の武漢から始まったこの新しいコロナウイルスはなかなか歯止めがかからず、今も全世界人々がこの一つ新型コロナウイルスによって、ずっと苦しんで来ているのではありませんか。感染されてから、13か月経った今年一月一日まで世界の1億人がこのコロナウイルスに感染されて以来、ただ半年が過ぎた7月31日2億人を超え、8月4日までに、2億22万人を超えて、総死者も425万8,243人を記録しています。特に、世界で一番安全な国、先進国だと言われたアメリカが一番感染者の多く3千604万人を超え、死者も63万人を超えているほどです。

ワクチンだけ開発したら、そして、接種したら、もうコロナは終息(しゅうそく)されるだろうと期待したものの、また変わった変異株が発生され、2度接種されてもまた感染されるケースが発生したり、それで早い国は3回目のワクチン接種を始めたながら、外したマスクをまたつけさせているところでもあります。もちろん、ワクチンのおかげでコロナの重症化率が大分下がって来てとても助かってはいるものの、完全に防ぐ保護膜にはならないことになっています。

日本では実は、以前もみなさんに伝えたように、我らにコロナも深刻な問題であり、弱さですが、心の悩みや苦しみや問題はもっと深刻です。たとえ、日本だけでも、昨年心の悩みや苦しんで、自ら命を絶ってしまっている自殺者数が昨年一

年だけで、今までコロナに感染され、亡くなられた 15,261 人より上回って、警察庁と厚生労働省は昨年の自殺者数は前年比 750 人増(3.7%増)の 2 万 919 人でした。医学報告書によりますと、医学者たちによって少し見解は違いますが、現代人がかかって病んでいる病の種類が約75,000ほどある見たいです。人は体の弱さ、心の弱さなど色々な弱さをみんな持っているのは当然です。それだけでしょか。今年もここまで、飢饉、地震、浸水、自然災害、最近は熱海市の土石流災害など様々な事件事故が多かったのではありませんか。

我らの人生は、まさに苦難の連続だと言っても過言ではないかも知れません。そんな中で今日までみなさんご自身とご家族がお元気でここまで守られているだけでもどれほど、神の恵みであり、感謝すべき理由があるでしょうか。今まで守られていること、そして、今日も、ご家族、親、子どもたちみんなお元気で共に神の教会で共に礼拝を捧げられる決して当たり前のことではありません。こんな大変なこの世の中、人生の中で今も元気で生かされているだけでも神の奇跡であり、感謝すべき理由が我らにはあるでしょう。

悪い意味でわたくしは知らないうちに、わたくし自分、結構完璧主義者のような人であったことをよくきづかされた 2 週間でした。自分は絶対に他の人たちに迷惑をかけたたりしないし、心配させたりさせない、いつももらうより与える人だと。子どもが多いけれども、今まで自分が父親として一生懸命に努力し、守って来たはずだとどこかで思い込んでいました。コロナ対策に対しても自分自身や家族、子どもたちを徹底的に管理していたはずで、自分の想定とコントロールの中にあると思っていた私でしたが、今回息子が感染され、家族もどうなるか分からない不安、教会の働きが 2 週間も全く出来ず、外に出かけられないもどかしい状況、教会の方々に多くの迷惑や心配をかけてしまっている自分がいやでいやで、父親として何も、どうしようも出来ない状態に落ちいてしまいました。その時に、出来ることはただ神の御前で切実に、懇切に祈ることしかできませんでしたが、どう祈るべきなのかわかりませんでした！

しかし、聖霊の神様は弱気わたくしを主が教会の家族が動揺しないように、教会の家族の心身ともに守って下さるように！息子の健康の回復を、残りの家族のみんながコロナ感染から守られるように！主が落ち込んでいる私の心と思いを守って下さるように！！と。嘆くわたくしの祈りの中で聖霊の神様は、わたしが祈れる力を与えて下さって神に集中できるように、どう祈るべきなのかわたくしの祈りを教えて導いて下さいました！

失望と絶望、落胆から、すべての状況を神ご自身がおさめておられるから安心するように平安と確信を祈りの中で与えて下さいました。そして、祈り中で頂いた御言葉が実は今日の本文の御言葉でした！

② 我らの祈りを通して助けて下さる聖霊の神様

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！今もなお我らと共におられる御霊なる聖霊の神の助けをどうやって頂き、体験出来るでしょうか。

26節に「御霊も、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、何をどう祈ったらよいか分からないのですが、御霊ご自身が、ことばにならないうめきをもって、(私たちのために)とりなして下さるのです。」

今日の本文の26節には、聖霊の神は我らのために、我らを助けるために、うめきをもって「とりなして下さる」と書かれています。この「とりなして下さる(NASB(New American Standard Bible): intercede)」というギリシャ語は「フィペレンティンカノ」で、「仲裁(ちゅうさい)する」、「ある人のそばに立ってその人のために嘆願(たんがん)する」の意味を持っている単語です。なので、正確には、聖霊の神様が我らのために、祈って下さっているより、祈るのは我らであって、聖霊の神様は、仲裁者として、我らと共に、我らの祈りを助けて下さる、それとも、言葉に言い表せないほどそんなうめきと嘆願されながら我らの祈りを助けて下さるという意味です。

先ほど、私が 2 週間体験したように、祈れる力すらない時に、祈れる力を与え、どう祈れば良いのか分からない時、神の御心通りに我らが正しく祈れるように助け、導いて下さるのが聖霊の助けの一つのお働きであることが分かります！ですから、神の助けが必要な時にいつも祈ることを忘れないで下さい。そして、聖霊の神様に、私をとりなして下さって

神の御心がなされるように、正しく祈れるように導いて下さるように、助けて下さるように求めることを忘れないようにしましょう！ C.H.Dodd という新学者は、御霊なる聖霊の神に対し、こう述べました。「聖霊の神は、霊的な力を供給して下さる通路(つうろ)が何か知ってますか。それは祈りです。聖霊の神は、我らが祈る時に働いておられ、祈り中で我らを助けて下さいます。」

「私が呼んだその日に、あなたは私に答え、私のたましいに力を与えて強くされました。(詩篇 138 篇 3 節)」

「主を呼び求める者すべて、まことをもって主を 呼び求める者すべてに主は近くられます。(詩篇 145 篇 18 節)」

「あなたがたのうちに、知恵に 欠けている人がいるなら、その人は、だれにでも惜しみなく、とがめることなく与えて下さる神に求めなさい。そうすれば与えられます。(ヤコブの手紙1章5節)」

本文 27 節に「人間の心を探る方は、御霊の思いが何であるかを知っておられます。なぜなら、御霊は神のみこころにしたがって、聖徒たちのためにとりなしてくださるからです。」だと書かれています。この御言葉の意味は、父なる神は御霊なる聖霊の神の願い、思いを知っておられ、聖霊の神も、父なる神の御心を知っておられ従って、御心がかなえられるように、我らの祈りを導き、助けて下さるという意味です。「人間の心を探る」という意味はギリシャ語で「エラウノン」という言葉で「心を買って見ておられる」という意味であります。神様は我らの今どんな心の状態のかをすでに買って見ておられ、知っておられるお方ですから、どう慰め、どう助けられるか、どう解決できるのか、どう回復できるのか我ら自身よりもご存じのお方です。

今しばらくは、どうしてこんな苦しみの目にあうべきなのか、どうして自分はこんなに弱いのか、うまく出来ないのか神の御心が分からない時もあるでしょう。しかし、ヨセフやモーセが、パウロが自分の弱さを通して、苦難の時を通りながらも祈り中で、神の御心を、神のご計画と深い摂理を知ることが出来たのではないのでしょうか。パウロは、こう告白しました。「9しかし、主は、「わたしの恵みは、あなたに十分である。わたしの力は弱さのうちに完全に現れるからである」と言われました。ですから、私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。(コリント人への手紙第二12章9-10節)」

聖書の時だけではなく、今も聖霊の神は同じく働いておられます。祈りの中で、神の御心が何なのか悟らせ、思い起こさせ、神の知恵を与え、ついに、我らを通して神の御心がすべてなされ、祈りが答えられるように聖霊の神様は働いておられるのです。

ですから、愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族みなさん！我らが弱いけれども、ひとりぼっちでは決してありません。いつも助け主なる聖霊の神様がともにおられます。そして、いつでも祈れば、聖霊の神の助けを頂けます！イエスキリストを信じるクリスチャンたちも同じく人生の苦難の時もあり、苦しみ悩む時もあるでしょう。しかし、世の人々と違う、信じる人々の大きな一つの祝福は、いつでも祈れることです！祈りを通していつでも助け主なる聖霊の神の助けを頂けることではないのでしょうか。自分勝手な祈りではなく、聖霊の神に頼りて、祈れば、我らの状況を全てご存じの神様が必ず父なる神の御心がかなえられ、答えられるように聖霊の神は私たちを助け、導いて下さいます！

26節に「御霊も、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、何をどう祈ったらよいか分からないのですが、御霊ご自身が、ことばにならないうめきをもって、(私たちのために)とりなしてくださるのです。」

大変なこの世の人生の旅路を歩んでいる中、今も、これからも神の御前で感謝を忘れず、溢れるばかり感謝しながら生きていでしょうか。今もキリストを信じるみなさんのうちにいつもともにおられる助け主なる聖霊の神の御助けを祈りの中で、祈りを通していつも頂けること、そうなる時こそ、どんな時にも感謝を忘れず、溢れるばかり、一生感謝する人生にさらに変わっていくことを今日共に心に刻んでおきたいと願います。

2. 聖霊の神は結局すべてのことをともに働かせて益となるようにしてくださるからです。

「28 神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人々のためには、(神が)すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。」

マタイの福音書7章9—11節に「9あなたがたのうちのだれが、自分の子がパンを求めているのに石を与えるでしょうか。10 魚を求めているのに、蛇を与えるでしょうか。11 このように、あなたがたは悪い者ではあっても、自分の子どもたちには良いものを与えることを知っているのです。それならなおのこと、天におられるあなたがたの父は、ご自分に求める者たちに、良いものを与えてくださらないことがあるでしょうか。」普通の親は自分の子どもたちが親の時代より、物事がうまくいけるように子供たちのためなら、何でもやってあげようとするのに、天におられるあなたがたの父なる神は、ご自分に求めるすべての人々に良いものを与えてくださらないはずがあるのかとおっしゃっています。その約束の御言葉が今日の本文28節です。「**28 神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人々のためには、(神が)すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。**」

この御言葉を違うように表現して見れば、我らは神様が働いておられるすべてのプロセスをきづくことができなくても、後で結果を見れば、神様はわたしのために、どのように、どれほど働いておられたのか知ることになるでしょう。

16世紀後半、エリザベス朝時代に、イギリスの清教徒(Puritans 英ピューリタン)たちは、ひたすら神の御言葉通り従い、純粋な信仰を信仰と生活の純潔を保とうとしてしていた人たちを、イングランド国教会の激しい迫害の中、11年間も逃避(とうひ)生活していましたが、結局信仰の自由のために、1620年8月15日に、メイフラワー号という船に乗り、イギリス南西部プリマスを出発し、大西洋(たいせいよう)を渡って、アメリカへ移住しました。彼らは、船上で礼拝を捧げながら、“私たちが新しい地に着いたら、そこで徹底的に神の御言葉と御心に従い一生神に人生の捧げ、委ねながら生きたいです”と祈られたそうです。102名が病気に苦しめられた66日間の厳しい航海を通して、ついにアメリカの大陸へ着きましたが、航海中病で多くの人々がなくなったり、アメリカ大陸に着いた後も、食べる物がなく、栄養失調で、寒さで亡くなって行きました。そして、残された人たちが荒地を耕して、初の刈り入れた収穫の物で神に収穫感謝礼拝を捧げ、その後、料理を作って、亡くなった家族を覚え、お墓の前で涙を流しながら共に食べれたことが、アメリカ歴史の始まりであり、収穫感謝祭(かんしゃさい、英語: Thanksgiving Day 今日11月4週目木曜日となっている)の起源(きげん)ともなっています。彼らが多くの犠牲を払いながら、アメリカの新大陸にまで移住して来て、定着しようとした理由は、金持ちになるためとか、お金を儲けるためではなく、神様を愛し、御言葉通りに真の信仰と信仰の純潔な生活を保つためでした。神はこのような清教徒クリスチャンたちの犠牲と信仰を用いて今日のアメリカという国を建てさせ大いに祝福して下さいたわけでありませう。

愛するみんなさん！今しばらく、なぜこんなことが起こったのか。こんな問題にぶつかったのか。神様はどうしてすぐ答え、助けて下さらないのか分からない時があるかも知れません。

しかし、みなさん！神を愛し、従おうとする人々たちには聖霊の神はすべてのことを働かせて、必ず益として下さるお方であることを我らも覚えれば、今しばらく願わない、理解できない状況であっても、後で聖霊の神様がどのように働いておられ、何のためだったのか御心を悟られる時が必ず来ますので、安心して下さい。ついには我らにすべて益として下さることを信じ、神に委ね続け、祈り続けて見て下さい。

ですから、愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！これからも思わぬ大変なことであっても、苦しい時、悩む時があっても、感謝に変え、神にあふれる感謝を捧げることが出来るみなさんとなりますように切にお祈り申し上げます！なぜですか。御霊なる聖霊の神様が、我らの弱さを助けて下さるからです。我らの為に祈り、我らが祈れるように力付け、どう祈れば良いのか分からなくても、神の御心が全てなされ、答えられ、すべてのことを働かせてついに益となるように祈りの中で必ず、助けて下さることをこれから常に体験出来る、神の御約束のことばを頂き、確かめられたからです。

さあ、みなさん！今日のこの御言葉を信じて守り実践して見ましょう。助け主なる聖霊の神がいつでも皆様と共におられ、祈るみなさんにいつも助けの御手を差し伸べて下さいますように、主イエスキリストの御名によってお祈りいたします！！

「何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。そうすれば、人のすべての理解を超えた神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。(ピリピ人への手紙4章6-7節)」